

会館だより



2014年 2月号

No. 296



公益財団法人 日中友好会館



目次

行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・主催展「Mayu Collection 暮らす・装う・彩る 中国少数民族衣裳展」

《日中友好後楽会》

- ・定例談話会
- ・第23回観桜会

活動記録

- ・第39期寮生委員会が発足
- ・心に残った小田原ホームステイ
- ・「JENESYS2.0」2013年アジア国際子ども映画祭参加訪日団が来日
- ・「JENESYS2.0」中国高校生訪日団第2陣が来日
- ・「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第8陣が来日

ご挨拶

- ・中国外交部より後楽寮の調理師が来日

コラム

- ・理事長のツイッター

会館行事と人の動き

表紙

チワン族の女性衣装

(日中友好会館美術館にて2014年1月29日～2月26日開催の

「Mayu Collection 暮らす・装う・彩る 中国少数民族衣裳展」で展示いたします。

詳細は本誌2ページをご覧ください。)

● 行事案内 ●

日中友好会館美術館

◆主催展

「Mayu Collection 暮らす・装う・彩る 中国少数民族衣裳展」



リー族 女性衣裳 (海南省)



ヤオ族 女性ズボン(雲南省)

「アートスペース繭」代表の梅田美知子さんのコレクションであるミャオ族、ヤオ族、イ族、チワン族やリー族といった中国少数民族の衣裳を展示します。その1点1点すべてが、刺しゅうやろうけつ染め、織物など時間をかけ、想いを込め手作りされています。

また各民族の特色あるお祭りや暦、暮らしの様子などもパネルでご紹介いたしますので、ぜひ会場に足をお運びになり、素朴ながらも生き生きとした輝きをもつ少数民族の世界をお楽しみください。

会 期：2014年1月29日(水)～2月26日(水) 時 間：10:00～17:00 入場無料 月曜休館
主 催：公益財団法人日中友好会館 協 力：アートスペース繭
後 援：中国大使館、(公社)日中友好協会、日本国際貿易促進協会、(一財)日本中国文化交流協会、
(社)日中協会

●二胡ミニコンサート

2月4日(火) 12:30～(約30分)

新進気鋭の二胡奏者・田宇さんによるミニコンサートです。

事前申し込みは必要ありませんので、直接会場にいらしてください。

●中国グッズ抽選会

1月29日、30日(旧暦の大みそか)、31日(春節＝旧暦のお正月)、2月14日(元宵節＝旧暦の1月15日)と会期中の土・日・祝日にご来館頂いた方の中から中国グッズがあたる抽選会を開催します。

【お問合せ】 (公財) 日中友好会館 文化事業部
電 話：03-3815-5085 e-mail: bunka@jcfc.or.jp



日中友好後楽会

◆定例談話会

次回の談話会は3月を予定しております。
詳細は3月号でお知らせいたします。

◆第23回観桜会

日 時：3月25日(火)
17:30より(受付17:00～)

会 場：小石川後楽園
涵徳亭(かんとくてい)

参加費：会員 3,000円/人
非会員の方はお問い合わせください

本年も小石川後楽園のしだれ桜の時期に後楽会会員の皆様、中国大使館や関係者各位ほか、大勢の方をお招きして懇親会を開催いたします。

年に一度の大きな集まりですので、ぜひご参加ください。

(入園には別途入園料がかかります)

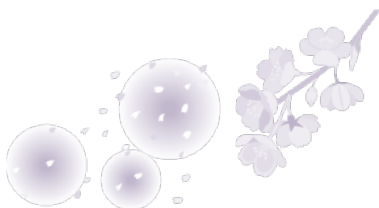
【お問合せ】

後楽会事務局 小林、大竹、緒方

電話：03-3811-5305

FAX：03-3811-5263

メールアドレス: kourakukai@jcfcc.or.jp



● 活動記録 ●

◆第39期寮生委員会が発足

後楽寮には寮生の自治組織である寮生委員会があります。任期は毎年1月から12月の1年間で昨年秋に募集を行いました。その後立候補された寮生を留学生事業部が個人面接、検討し、委員長1名、副委員長2名をはじめとする各委員の計11名が第39期寮生委員会としてスタートしました。

寮生委員会は寮生の生活サポートや寮内のいろいろな活動や行事、さらには外部との交流のスタッフとしても活躍しています。昨年は春節、日中友好会館設立30年記念感謝会や花見、防災訓練など200回以上もの活動がありました。



後楽寮忘年会にて新旧寮生委員による合唱

今期も様々な活動がありますが、まずは春節祝賀会に向けて現在留学生事業部と日々打ち合わせをしながら準備を始めています。

留学生事業部としても各寮生委員の学業になるべく影響しないよう各方面で指導、サポートをしていきたいと思っています。

(留学生事業部)

◆心に残った小田原ホームステイ

12月6日、日差しが少しうららかな午後、私達は幸運にもこの度のホームステイに参加できることになり、三日間の日本でのホームステイを体験しました。感動と喜びの気持ちを抱きながら、私達一行4人は、日本の小嶋先生の家で日本の民間文化と伝統を体験し、理解するため、小田原への道中に旅立ちました。

空の色が暗くなってきた頃、私達はずいぶん目的地に辿り着き、小嶋先生ご夫妻と合流することができました。小嶋先生ご夫妻は、白髪で温かみのある上品な雰囲気のお夫婦でした。小嶋先生と奥様の厚いおもてなしを受け、私達のご夫妻のご自宅に辿り着きました。そこには、二階建ての小型の別荘と、広い庭がありました。庭には手をかけて剪定された植物と家具が備えられており、温かい雰囲気が感じられました。

晩御飯は、伝統的な日本料理のすき焼きでした。おふたりの温かいおもてなしに、私達は少しもよそよそしい感じがせず、まるで長い間同じ家に住んでいた家族が、食卓を囲んで座ってご飯を食べながらおしゃべりをする感覚の温かな気持ちが湧き上がってきました。ご飯を食べた後ののんびりとした気持ちのよい交流から、私達が受け取った恵みは大きいものでした。小嶋夫妻は私達にかつてここでホームステイをした様々な留学生の思い出をお話ししてくださり、またご夫妻は彼らからの便りと手紙を綴った冊子を開き、様々な名刺を見ながら、かつてここにやってきて帰っていった方達のことをやさしく話してくれました。この冊子を見たとき、私には、ご夫妻はこのような平凡なことを何十年もかけて続けてきたのだという尊敬の念が湧き起こりました。このような行為は、並大抵のことではなくて、人々を感動させるものです。その後

私達のご夫妻が中国に行かれたお話や、ご夫妻と後楽寮の関わり、小嶋先生のかつてのお仕事のお話、ご夫妻が打ち込んでいる様々な活動についてなどを話し合い、のんびりとした楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。

次の朝、早く起きると小嶋ご夫妻は既に私達のために盛大な朝ごはんを準備してくださり、私達は大変嬉しく思うとともに、自分達のご夫妻に協力して朝ごはんを作れなかったことを申し訳なく思いました。ご飯を食べた後に、小嶋ご夫妻の畑でみかん狩りをしました。その途中に小田原の近くの高地から海に隣接した町の風景を眺め、遠くに壮麗な富士山を見ることができました。

私達はトラックの後ろに乗り、ゆらゆら揺れながらみかん畑に辿り着きました。この道のりも私達にとって特別で忘れられない体験となりました。初めてトラックの後ろに乗れたことが、嬉しいと同時にびくびくしたことと、日本の家庭の農作の時のんびりとした雰囲気を実際に体験できたこともよい体験になりました。



みかん畑にて

私達と小嶋ご夫妻は、一緒にみかんを狩り、雑草を駆除し、みかん畑の世話をしました。一方でみかんを狩りながら、もう一方で小嶋先生の奥様のみかんにまつわるお話をうかがいました。どのようにみかんを植え、どのよ

うに雑草の駆除を行うのか、ご夫妻は農薬を使いたくないので沢山のお金と労力をかけ、管理を行い、毎日みかんの世話をを行った結果みかんは特別に甘くなり、農薬を使ったみかんよりずっとおいしくなることなどを聞きました。

みかん狩りが終わると、ご夫妻はご親切に袋一杯のみかんをくださり、大きくて黄色いみかんを熱心に選び、箱詰めにしたものを後楽寮にいただきました。同時に、隣家のためにたくさんのみかんを摘みました。

午後になると私達は歩いて海辺にいきました。私達はきれいな貝殻と玉石を沢山拾いました。そしてうちよせる波に向かって石を投げました。私たちが遊んでいるとご夫妻も同じようにのびやかな気分になり、自分達が楽しむのと同時に私達にも楽しみを分かち合ってくれているようでした。平凡な活動の中にも心を楽しませてくれるものがあり、私達は安心感と幸福感で一杯でした。

私達は自分なりの方法を用い楽しさをご夫妻と分かち合うこととし、拾ってきた石の上に漫画を描いて彼らに手渡しました。ご夫妻はとても楽しんで笑っていらっしゃって、私達も感謝の気持ちで一杯になりました。

夜家に戻ってきてから、私達は天ぷら作りを始めました。自分で天ぷらを作るのは今回が初めてです。作り方は簡単ですが面白いものでした。そして皆で分かち合い自分達で作ったおいしい天ぷらを堪能し、テレビをみながらおしゃべりをしました。浅田真央さんは、やはりみんなが好きなスポーツ選手です。お話の話題は豊富多彩でとても面白かったです。

晩御飯の後、小嶋先生ご夫妻は紙の造花の作り方を教えてくれました。一見簡単な一本の紙の造花がとても複雑な工程を必要とし、その作り方はとても真新しいものでした。一人一人が本当に一生懸命に作りました。この

体験は、私達に小さい頃を思い出させてくれました。20年前の感覚です。毎日とても忙しい時に、少しの間心を落ち着かせ、小さな紙花作りに携わり、他のことはなにも考えずにいられることは、なんと幸せなことでしょう。こんなに素敵な体験をさせていただいたことを小嶋先生に感謝したいと思います。

一晩の熟睡が、早朝の気持ち良い目覚めをもたらしてくれました。この日、時間通りに起きると、みんなで小嶋先生を手伝って、朝ごはんを作りました。こんな簡単で楽しい朝ごはんは、日常生活では久しぶりのものです。こんなに丁寧に朝ごはんを作り、ゆっくりと食べおわることは、ひさしく経験できなかったことです。日常の慌ただしさは、このようなぬくもりをなおざりにしてしまっています。ご飯を食べた後、私達はお昼ご飯に食べるおにぎりを作りました。作り方はとても簡単で面白いものです。



おにぎり作り

おにぎりを作り終わると、私達は小田原城の天守閣へと出発しました。天守閣は歴史建造物であるので、沢山の歴史的な遺物を見ることができます。小嶋先生ご夫妻は沢山の歴史の話をしてくださり、解説はとても分かりやすく面白かったです。天守閣の頂上からの景色は、人々の心を心地よくさせるものです。日本には沢山の美しい都市があり、美



しいお話があり、美しい人々がいます。このようなことは、日常生活のなかに生きづいていて、私達が感じとり、理解するまで待っていてくれています。

小田原城見学後、私達は小田原の市民国際交流センターに行き、一緒に準備してきたおにぎりを食べました。同時に、職員の皆さんと沢山お話をしました。職員の皆様はとても親切で、温かくて友達のような態度で私達に接してくれました。私達が日本に来て以来、日本人は互いに尊敬しあい、助け合い、謙譲しあっています。こんな簡単なことを人々は、一貫して行っています。

ご飯を食べ終わった後、私達の小田原のホームステイは終了しました。小嶋ご夫妻は、私達を駅まで見送ってくれました、途中で私達をお土産の店に連れて行ってくれました。お二人は私達が電車を乗り間違えるのを心配して、駅まで見送ってくれました。最後に駅でお別れする時に、もう一度ご夫妻の家に遊びにくるようお招きくださいました。お別れするのは寂しかったですが、このことにさらに感動しました。

ホームステイに行ってから、すでに一か月近くすぎてしまいましたが、この三日間の思い出は、現在に至るまで細かく覚えており、平凡でありながら美しくなかなか忘れがたい思い出です。このような機会にさらに参加し、日本人の生活を通じ、私達のことを理解していただくと同時に私達も日本人に理解してもらおうことを希望します。人々は皆、平凡でありながらも生活を楽しみ、平和を好んでいます。中日の友好が末永く続くことを望んでいます。

(後楽寮生 姜歡笑、李晋琦
翻訳 留学生事業部)

◆ 「JENESYS2.0」 2013年アジア国際子ども映画祭 参加訪日団が来日 兵庫・神奈川・東京を訪問



和服の日本人と記念撮影
(第7回アジア国際子ども映画祭)

2013年11月26日から12月4日までの日程で、中国教育部が派遣する2013年アジア国際子ども映画祭参加訪日団が来日した。本団は兵庫県南あわじ市で開催された「第7回アジア国際子ども映画祭」に短編映画を出品した、北京師範大学附属実験中学の高校生と引率で構成され、外務省が実施する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

一行は兵庫、神奈川、東京を訪問し、南あわじ市が主催する映画祭やフォーラム、学校交流等のプログラムに参加したほか、先端技術に関する施設訪問や、「クールジャパン」をテーマに視察・参観し、政治・歴史・文化・社会に関する包括的な対日理解を深めた。

兵庫県南あわじ市で 16カ国・地域の青少年が交流

訪日活動のメインであるアジア国際子ども映画祭と、今回の作品のテーマである「いじめ」についてのフォーラムには、中国のほか、日本を含め15カ国・地域の青少年が参加した。

それぞれ生徒たちがホームビデオで制作した3分の映像作品を出品しており、フォーラムでは各国・地域の作品を1作品ずつ鑑賞し、自分の国・地域以外のいじめの現状について知る機会となった。最後には全員で「いじめ

撲滅宣言」をして締めくくられた。その後開催された映画祭には、名誉会長を務める俳優の杉良太郎氏のほか、谷垣禎一法務大臣、青柳正規文化庁長官も駆けつけた。中国は残念ながら入賞を逃したが、各国・地域から参加した青少年や、地元の参加者と交流を楽しみ、大盛況で幕を閉じた。

学校交流はフィリピン、シンガポールの訪日団と一緒に、柳学園中学・高等学校を訪問。日本の高校生と一緒に化学の授業に参加し、「化学変化と気体の体積」の実験を行った。茶道部ではお茶の点て方と頂き方を学び、畳の上での正座に苦しみながらも、日本文化を体験することができた。相撲部の体験入部では、代表生徒がまわしを締め、四股、摺り足などを練習した後、訪日団2名対相撲部員1名の試合が行われた。訪日団は全く歯が立たず、観戦していた生徒からは大歓声が起こった。

16カ国・地域の青少年が一堂に会した交流会では、それぞれが民族衣装を着て伝統舞踊や歌を披露し合い、会場が華やいだ。訪日団から日本参加者への記念品贈呈では、各国・地域の特色ある品々が贈られた。

そのほか南あわじ市では、人形浄瑠璃鑑賞やうずしおクルーズ乗船、伊弉諾神宮などを参観し、地方の魅力を満喫した。

日本の先端技術、政治、歴史を学習

南あわじ市でのプログラムを終えた一行は、神奈川と東京を訪問。神奈川では独立行政法人海洋研究開発機構を視察した。長期間の調査から帰ってきたばかりの有人探査船「しんかい6500」を間近で見たり、高圧実験でインスタント麺のカップが収縮する様子などを見学した。団員からは絶えず質問が上がり、日本の技術に驚いていた。そのほか国会議事堂、江戸東京博物館、杉並アニメミュージアム、箱根大涌谷や富士山などを参観し、クールジャパンを体感した。



水深6,500mの圧力を再現した実験を見学
(独)海洋研究開発機構

ほぼ全員が初来日で、「南あわじ市の自然や文化、人々の温かさに感動した」、「最先端技術や世界遺産など、さまざまな角度から日本を理解することができた」、「自分の目で見て感じた日本を友達や両親に伝えたい」といった感想が聞かれた。本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)

◆ 「JENESYS2.0」 中国高校生訪日団第2陣が来日 新潟の高校生と交流

2013年12月3日から12月11日までの9日間、中国高校生訪日団第2陣(団長=王占起・中国日本友好協会政治交流部部長)が来日した。本団は、北京市の清華大学附属中学と北京市第二十七中学に通う高校生と引率の計60名で、外務省が実施する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

訪日団は、東京都と新潟県、神奈川県を訪問した。高校を訪問しての同世代交流とホームステイで日本人の生活に触れ、友情を育んだほか、先端技術に関する視察や地方自治体によるブリーフなど「クールジャパン」をテーマにさまざまなプログラムに参加し、政治・経済・歴史・文化・社会に関する包括的な対日理解を深めた。

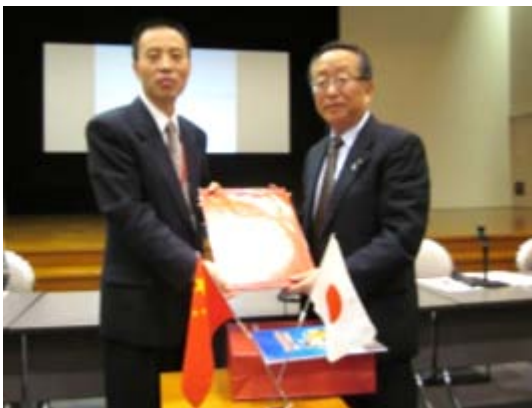
里山を学び、自然との共生を考える

訪日団は外務省において、恵泉女学園大学人間社会学部の松村正治准教授より、「見直される里山～自然とともにある暮らし」というテーマで講義を受けた。近年、中国でも環境汚染が問題となっているが、里山を管理し活用することで、環境保護と持続可能な経済活動を両立させるというアイデアに、団員は興味深く聞き入っていた。

一行はまた、国会議員8名と懇談し、出席した議員から、日中関係の重要性と改善への期待のメッセージが述べられた。団員からは、「日本の首相はよく変わるが、影響は出ないのか」「2020年オリンピックの東京開催は日本にどんな変化をもたらすと考えているか」など多方面にわたる質問が出された。

日本の高校生の生活を体験

新潟県では、森邦雄副知事を表敬訪問した。森副知事より歓迎の意が伝えられ、新潟県と中国との交流について紹介があった。国際課より、新潟県の魅力、観光について説明を受けた。団員からは、「コシヒカリの特徴」や「中国黒龍江省との経済交流」について質問が挙がった。



新潟県の森邦雄副知事（右）を表敬訪問した王占起団長（左）

訪日のメインプログラムである学校交流は、新潟市と新発田市に分かれ8校を訪問し、日本の高校生と交流した。英語や体育などの授業や部活動に参加して高校生活を体験した。交流会では、最初こそなかなか言葉が通じず

苦勞していたが、すぐに溶け込み、同世代共通の話題で盛り上がっていた。放課後はホスト生徒と一緒に帰宅してホームステイし、日本の家庭の雰囲気を楽しんだ。1泊2日を経たホームステイ解散式では、口々に日本の家族との楽しい思い出を報告し、ホストファミリーとの別れの際は、涙に言葉を詰まらせながら感謝と再会への希望を伝えていた。



体育の授業に参加し、剣道の防具のつけかたを教わる（新潟明訓高等学校）

宇宙研究理解や環境学習

クールジャパンに関する参観では、日本の最先端技術に触れるためJAXA相模原キャンパスを訪れ、展示されている小惑星探査機「はやぶさ」の実物大モデルや、予備のロケットなどを見学した。環境施設として中央清掃工場を訪問し、東京23区のごみ処理についての説明と工場内見学で学習した。北京では少しずつゴミの分別が始まっていることもあり、回収後の処理の過程を団員は熱心に見学していた。

そのほか、新潟で阿賀野川ライン下りや、江戸時代の豪農の屋敷を保存している北方文化博物館、新潟市マンガ・アニメ情報館を参観、また、東京で浅草寺、日本科学未来館を参観するなど、さまざまな活動を行った。

本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

（総合交流部）

◆「JENESYS2.0」 中国大学生訪日団第8陣が来日 一行60名が東京・長崎・京都・大阪 にて活動

2013年12月15日から12月22日までの日程で、「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第8陣（団長＝関立形・中国日本友好協会 秘書長）計60名が来日した。本団は、吉林省、黒龍江省、大連市の3地域の大学生で構成され、外務省が推進する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。



日本大学文理学部キャンパスにて
多くの学生に温かく迎えられる

訪日団は、東京と長崎にて大学を訪問し、日本の学生と交流したほか、国会議員との懇談、外務省訪問、クールジャパンに関するセミナー、長崎県によるブリーフ、日本の文化・社会に関する視察など、さまざまなプログラムに参加した。

東京での多彩なプログラム

東京では、日本大学文理学部を訪れ、日本の大学生と親睦を深めた。キャンパスツアーや交流会では、日中双方の学生が積極的に、日本語や中国語、英語で会話する様子が見られた。

外務省を会場に実施したセミナーでは、一橋大学の松井剛教授から、日本の漫画やアニメが海外へどのように進出しているかについて、講義を受けた。漫画やアニメに興味や関心のある団員が多く、質疑応答では多くの質問があがった。

国会議員との懇談会では、議員自身の中国との関わりや思い出が話されるなどして温かく迎えられ、日本語が得意な団員が、直接日本語で質問する場面も見られた。高齢化などの日中共通の課題や、2020年のオリンピックによる経済効果など、話題は多岐に及んだ。

長崎・京都・大阪にて さまざまな角度から日本に触れる

一行は長崎へ移動し、長崎県によるブリーフに参加した。県の若手職員から流暢な中国語で長崎県の魅力や特徴、中国との関わり等について説明され、団員は終始笑顔でユーモアに富んだ説明を聞いていた。また、質疑応答や学生代表挨拶では、おもてなしや梅屋庄吉について話題が及び、団員の日本に対する関心の高さが伺われた。

関団長ら代表者は、中村法道長崎県知事を表敬訪問した。

長崎県立大学シーボルト校訪問では、日本の学生との交流で、ダンスが披露されたり、一緒に歌ったり、クイズに参加するなどして、にぎやかな雰囲気で見学された。またキャンパスツアーでは、看護に関する施設見学もあり、団員は興味深く参観していた。両国の学生は、お互いに相手の国に関心を持ち、言葉を学ぶ参加者が多く、同年代の若者同士、自然な様子で交流していた。



長崎県立大学シーボルト校の
キャンパスを見学しながら賑やかに交流



佐世保ではハウステンボスを訪れ、次世代エネルギーに関する視察を行った後、環境保全を推進している園内を参観した。クリスマスに近い時期で、日が暮れる頃には、1000万球を超える大規模なイルミネーションを見ることができた。そのほか県内にて、平和公園、孔子廟、長崎港松が枝国際ターミナルと孫文・梅屋庄吉夫婦三人像、島原武家屋敷を参観し、さまざまな角度から対日理解を深めることができた。

関西へ移動した一行は、京都にて金閣寺を参観したほか、手織り体験を行った。大阪では松下幸之助歴史館視察や、大阪城参観を通じて、日本の社会や文化、歴史に触れた。

8日間の多彩な活動を通じて、団員は日本に対する理解や関心をより一層高め、日本を身近に感じる経験となったようだった。

本団の受け入れにご協力下さったご関係の皆様は、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(総合交流部)

● ご挨拶 ●

◆中国外交部より 後楽寮の調理師が来日

中国外交部から後楽寮の調理師として、許祥さんをお迎えしました。



皆様こんにちは。中国外交部の在外機関サービスセンター調理師の許祥と申します。

1965年生まれの48歳です。2013年12月12日に来日しました。

以前は旧ソ連大使館、南アフリカのレソト大使館、アメリカのニューヨーク総領事館で仕事をしていました。

調理の仕事がとても好きなので、中国伝統料理の基本を継承しながら外国の料理法を勉強し、自身の料理の水準を高めたいと思っています。

趣味は室外ではスケートなどの冬のスポーツや郊外へのハイキング、室内ではテニスの試合観戦などです。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



● コ ラ ム ●



理事長のツイッター

(公財)日中友好会館 理事長 武田 勝年

昨年12月26日午前11時頃、一人の職員が緊張した面持ちで執務室に飛び込んで来て私に告げた。「安倍総理が靖国神社を参拝します。テレビ中継が始まります。」これを聞いて、「とうとうやったか...」と言う暗然たる気持ちと「まさか、嘘でしょう」との微かな期待が交錯した。

気持ちを静めて参拝の模様を報ずるテレビ画面の眺めている時は、「そっくりさんの悪い冗談だといいな」などと軽口を叩いていたが、総理の記者会見を聞いて悲しむべき現実を受け入れざるを得ないと観念した。靖国参拝をしたい心情を訴えて選挙に勝利した、国のため戦い倒れた方々に対し尊崇の念を表わすのは当然だ、参拝された歴代総理と同じ気持ちで不戦の誓いをした、中国・韓国の人々の気持ちを傷つける考えはない、両国に対してはぜひこの気持ちを直接説明したい・・・等等、率直に丁寧に総理の考えを述べられたと思うが、現下の国際政治情勢の下でとても中国や韓国、近隣諸国及び米国の理解が得られる説明ではない。

在日米大使館は「米国政府は失望している」との声明を発表した。中国外相は「重大な結果の責任は日本が負わなければならない」と抗議し、韓国政府は「嘆かわしく、憤怒を禁じえない」との声明を発表した。公明党山口代表は事前に「賛同できない」と自重を促されていた。日本には、「靖国参拝は国内問題であり、外国からの抗議は内政干渉である」との議論があるが、中国及び韓国の多くの国民が靖国参拝は第二次世界大戦の侵略を正当化する行為であると思っている現実があり、今回の参拝が彼らの気持ちを傷つけ、日本に対する不信感を高めることは間違いない。重大な決意と覚悟で内外の難題に正面から挑戦されている安倍総理には大いに期待しているのだが、今回の行為は著しく国益を損ねるものと言わざるを得ない。

12月中旬、当会館の受け入れで来日した中国大学生訪日団の代表は、歓送報告会の席上素晴らしい日本語で「交流を通じて心の繋がりを感じた。日本の伝統的情緒と先端技術に触れることができた。日中友好の懸け橋になりたい」と感想を述べてくれた。彼らにこう語りかけたい。「安倍さんは日本の総理だが、日本国民を代表して参拝したわけではない。多くの日本国民の考え方は異なる。若い世代の友情と相互理解を育てて、民間の揺るぎない信頼関係を構築するために共に努力しよう。」



会館行事と人の動き 2013年12/1～31

● 会館行事

- 11/26～12/4 ▶ 「JENESYS2.0」2013年アジア国際子ども映画祭参加訪日団 来日
(12/3 同団報告会、歓送会)
- 12/3～12/11 ▶ 「JENESYS2.0」中国高校生訪日団第2陣 来日 (12/4 同団歓迎会、12/10 歓送報告会)
- 12/5～12/8 ▶ 貸美術館催事「第24回日中友好自詠詩書交流展東京展」
- 12/5 ▶ 後楽会中国画教室
- 12/6～12/8 ▶ 後楽寮生 小田原ホームステイ
- 12/9～12/15 ▶ 貸美術館催事「費新我 生誕110周年記念 書画精品訪日回顧展」
- 12/12 ▶ 後楽寮新入寮生懇親会
▶ 後楽寮新調理師1名来日
- 12/15～12/22 ▶ 「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第8陣 来日 (12/16 同団歓迎会、12/21 歓送報告会)
- 12/18 ▶ 後楽寮調理師1名帰国
- 12/18 ▶ 第一回評議員懇談会・昼食会
- 12/20～12/22 ▶ 貸美術館催事「中国古書画と近代名人墨跡展」
- 12/28 ▶ 後楽寮寮生委員会主催忘年会

● 来館・訪問・面会

- 12/3 ▶ 中国人民対外友好協会 張子輝氏インタビュー (江田会長)
- 12/4 ▶ 中国映画協会 陳燕生氏 来館 (王中国代表理事)
▶ 元後楽寮生 内蒙古大学 那仁朝格函教授 来館
- 12/6 ▶ (公財)藤沢市観光協会 福島専務理事 来館 (武田理事長、留学生事業部)
- 12/17 ▶ 日本コヤマダ国際機構 小山田理事長 来館 (江田会長、武田理事長、王中国代表理事)
- 12/26 ▶ 文京区アカデミー推進部 工藤課長 来館 (武田理事長)

● 行事参加、その他の活動

- 12/7 ▶ 松山バレエ団ご招待「くるみ割り人形」(後楽寮生21名)
- 12/9 ▶ 中国観光局忘年会 (王中国代表理事)
- 12/20 ▶ 中国留学生友の会主催「中国留学生を囲む望年会」(留学生事業部、後楽寮生)
- 12/25 ▶ 長崎県・中国大使館忘年会 (王中国代表理事)



発行

2014年2月1日発行 第296号

公益財団法人 **日中友好会館**

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目5番3号

電話(03)3811-5317 FAX(03)3811-5263

<http://www.jcfc.or.jp/>